

謝辞

## 謝辞

本論文は、莫大な社会的損害を与え、多くの犠牲者を出した兵庫県南部地震の被害データを基に研究させていただき、博士論文としてまとめたものである。東京大学生産技術研究所に来て3年の月日が流れようとしているが、改めてこれら一連の研究が多くの犠牲の上に成り立っているという事実を謙虚に受け止めるとともに、今後も災害による被害を少しでも軽減させるための研究を続けようと、防災に関わる身として責任を感じる今日この頃である。

東京大学の山崎文雄先生、藤野陽三先生、小出治先生、中埜良昭先生、目黒公郎先生、そして横浜国立大学の村上處直先生らには、主査・副査として多大なる助言をいただいた。これらの貴重なアドバイスのおかげで、本論文を完成させることが出来、それと同時に今後の研究の方向性も見つけることが出来た。この場を借りて深く御礼申し上げたい。

本論文では、兵庫県南部地震の被災地域である尼崎市、伊丹市、宝塚市、西宮市、芦屋市、神戸市、明石市、北淡町の建物被害データを使用させていただくと同時に、建物被害調査の研究に関して協力をしていただいた。特に神戸市、北淡町の役所の方々には、研究の目的を理解していただき、データ使用に関して多大なる便宜をはかっていただいた。建築学会、都市計画学会、震災復興都市づくり特別委員会、兵庫県、建築研究所によるデータおよび資料は高頻度で利用させていただいた。関係者の方々に深く感謝したい。さらに、この場を借りて兵庫県南部地震により亡くなられた多くの方々のご冥福を祈るとともに、被災地の更なる復興を願う次第である。

指導教官である山崎文雄先生には、生産技術研究所で助手として研究をする機会を与えてくださったことに対して深く感謝したい。また各委員会、研究会等に参加させていただいたことで、多くの人々と知り合うことができた。そして本論文をまとめるにあたり、研究の方向づけから、詳細に至るまで熱心に指導していただいた。私が計画系出身であるため、構造的な観点からの指導は多いに刺激的であると同時に、専門知識が欠けていたばかりに戸惑いを感じることも少なくなかったが、山崎先生の根気良く暖かい指導のお蔭で、幅広い視点で研究をすることが出来た。

同じ研究グループの須藤研先生、目黒公郎先生、若松加寿江先生、及び INCEED の A. S. Herath 先生、D. Dutta 助手には、ミーティングやその他の行事を通して、公私それぞれの立場から数々の助言をいただくと共に、研究者としての生き方を教えていただいた。特に目黒先生とは飲む機会も多く、ある時は防災の研究者として、ある時は六本木の先輩として、ある時は兄貴分として、数多くの貴重なアドバイスをいただいた。研究室の学生、秘書にも感謝したい。同じ研究グループの仲間として、杉浦正美研究員、杉本寛子研究員、山口直也君らと交した多くの議論は研究の原動力となった。また田中宏幸君の協力により危険度評価の部分をもとめることが出来た。秘書の山田瑞枝さん、伊藤はるなさん、鼻戸友紀子さん、江上静さんらには、研究室の雑務を肩代わりしていただいた。生産技術研究所の先生方にもお世話になった。中埜良昭先生には芦屋市の調査および応急危険度判定について貴重な助言をいただいた。三神厚助手には、博士論文提出の事務手続きの面で何度も相談にのっていただいた。所内に KOBEnet という情報の宝庫があったこと

## 謝辞

も研究をするうえでプラスになった。これまでに資料を提供してくださった方々，そして常にアンテナを張り巡らせ資料を収集するなど KOBEnet の運営をされてきた先生方にも感謝したい。

各研究会，委員会を通して知り合った多くの学会関係者の方々にもお世話になった。損害保険料率算定会の坪川博彰氏，佐伯琢磨氏，日本総合研究所の入江さやか女史には灘区，北淡町のデータ整理に関して協力していただいた。地震予知総合研究振興会の池田潤一氏，東京ガスの清水善久氏をはじめとする「地震時被害推定・対応システムの開発に関する研究」の委員会の方々との打合せは研究の方向性を定める上で参考になった。また文部省の特定領域研究「社会基盤システムの実時間制御技術」研究の打合せからも多いに刺激を受けた。京都大学の清野純史先生，鳥取大学の野田茂先生，名古屋大学の福和伸夫先生，飛田潤先生，日立製作所の瀬古沢照治氏からは貴重な助言をいただいた。鳥取大学の盛川仁先生，松岡昌志氏をはじめとする地震防災フロンティア研究センターのスタッフには，同世代ということで飲みながら，相談にのっていただいた。奈良大学の確井照子先生には GIS の使用に関して 1 週間に渡り特別に指導をしていただいた。そのお蔭で，MUSE をはじめとする自分のイメージを視覚化することが出来た。エコプランの三船康道氏には防災および都市デザインの世界に身を置くという共通の立場から，相談にのっていただき，貴重な資料も快く貸していただいた。これらの方々にも心からお礼申し上げたい。

経済的な援助としては，山崎先生代表の文部省科学研究費および山崎研究室に対する各組織からの補助によるところが大きかったが，個人的にも 2 年間に渡る奨励研究が採用されたお蔭で，研究費に困ることなく研究することが出来た。改めて感謝したい。

本論文で提案した MUSE という考え方は，生産技術研究所以前の経験から生まれている。横浜国立大学の村上處直先生，佐土原聡先生には，アメリカ研修など多くの素晴らしい経験をさせていただき，大学院卒業後も多にお世話になっている。兵庫県南部地震直後に防災都市計画研究所で働く機会を与えてくれた両先生に感謝したい。Virginia Polytechnic Institute の G. Hunt 先生には実際の建築・都市に触れながら多くのことを教えていただいた。また生産技術研究所に来る際に便宜を図って下さった早稲田大学の尾島俊雄先生，防災科学技術研究所の片山恒雄先生にも心よりお礼申し上げたい。尾島俊雄先生には早稲田大学内の災害情報センターに所属していた際に，壮大な都市ビジョンについて触れる機会を与えてくださり，勉強させていただいた。防災都市計画研究所，災害情報センターの所員の方々にも，災害・防災という分野に関して多くのことを教えていただいた。特に元谷豊，井田敦之の両氏とは建築について議論することが多く，良き友人として大変お世話になった。接することは少なかったが，東京大学教授であり建築家の安藤忠雄氏の考え方，言動，作品からは，心の師として多くの影響を受けてきた。コンピュータシミュレーションに対する考え方は，大学院時代にお世話になった建築家の渡辺誠氏からの影響が大きい。また横浜国立大学助教授であり建築家でもある北山恒氏には，建築に関する多くのことを教えていただいた。「防災という立場から，村尾君にしか出来ないことがあるはずだ。」という氏の言葉を思い出し，どれだけ励みとなったことか。これらの方々から受けた影響は計り知れず，今後も研究を続けていく上でまだまだ学ぶことは多いであろう。

## 謝辞

大学院時代に経済的な面で支援していただいた（株）工都冷熱にも深く感謝したい。大学時代の仲間である SLUICEWAY の友人達には私的な立場から常に励まされて来た。中でも伊藤寛隆，青山文彦の両氏は，私の良き理解者であった。高校時代からの友人である阿部皇二，中島均，針谷俊也らは，数学的思考，都市環境，建築設計という各立場から相談にのってくれた。

弟の俊彰，妻の家族も応援してくれた。妻の奈保はことあるごとに，励まし，力づけ，ある時は批判し，ある時は誉め，この数年間の悲しみと喜びを共有してくれた。私の一番の理解者である彼女がいてくれたお蔭で，多いに勇気づけられ，精神的にも安定し，本論文を書き上げることが出来たと思う。

これらの方々の御理解，御協力なくして本論文は完成しえなかった。博士論文を書き上げられたことにことに対して，これまでお世話になった全ての方々に改めて謝意を表したい。

最後に，本論文を書き終えたことを最も喜んでくれたであろう，親不孝ばかりかけていた両親に，感謝を込めて本書を捧げる。

1999年11月 村尾 修